

パンクロック・スウラップ 「みんないっしょに名古屋港」

Pangrok Sulap SAMA-SAMA IN NAGOYAKO

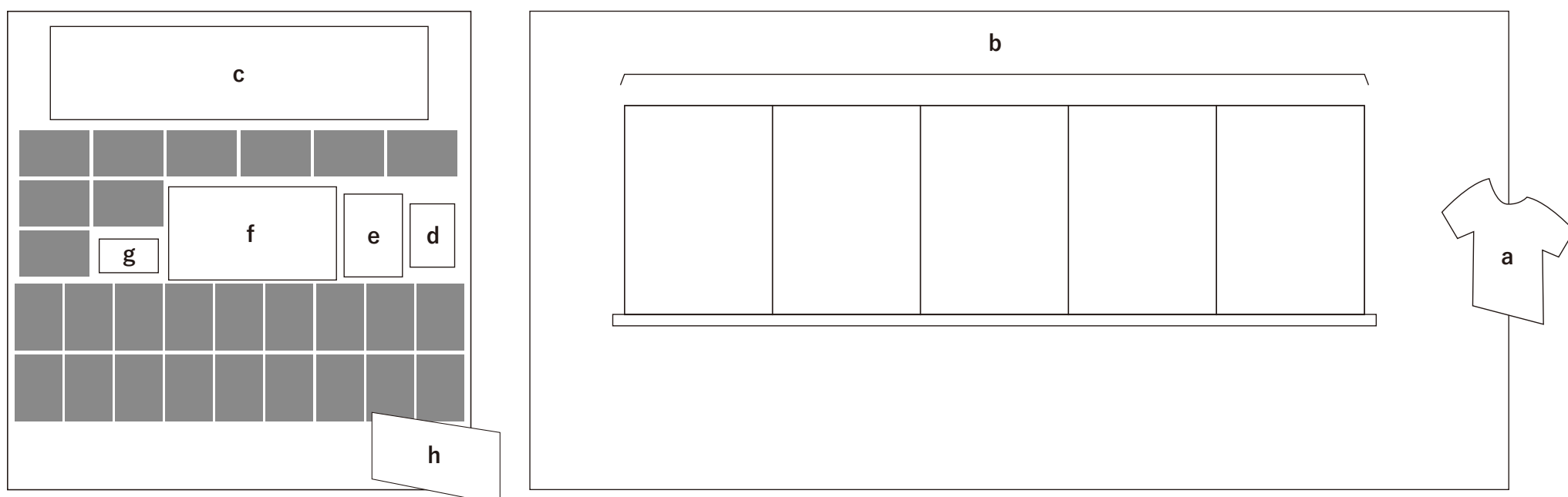
パンクロック・スウラップからのメッセージ

名古屋港での滞在中、異なる背景や文化を持つ地域の人びとやアーティストたちと交流できたことは、私たちにとってとても良い経験でした。私たちはアイデアや技術、物語を互いに交換し、この良い雰囲気の中でお互いを支え合い、協働することができました。

また、港まちポットラックビルでコミュニティが織り込まれていくことに会えて、幸せだったと感じています。

木版画のワークショップでは、これほど良い反応とが得られるとは思っておらず、全員が満足していました。みんなの良い協力のおかげで《SAMA-SAMA in Nagoyako》という作品ができました。みんな、本当におめでとう！

港まちポットラックビルのチームのみんなも、私たちにたくさんの刺激を与えてくれました。とても快適な滞在の時間と、素晴らしい機会をありがとうございました。名古屋滞在中、素晴らしい思い出をありがとうございました。また別の機会があれば、私たちは戻ってくるので、一緒にやりましょう。



a. SAMA SAMA T シャツ

(所蔵：kenta)

b. 《SAMA-SAMA IN NAGOYAKO (みんないっしょに名古屋港)》

2023、木版画

パンクロック木版画作品

c. パンクロック歌詞

パンクロック・スウラップが作詞・作曲・パフォーマンスした楽曲『村人たち』の歌詞。日本語訳は造形作家であり、文化人類学者の廣田緑。

d. 《名古屋のみんないっしょに学ぼう!》

2023、木版画

e. 《名古屋のみんないっしょに学ぼう!》

2023、版木

f. 滞在中活動映像

パンクロック・スウラップが開催したワークショップや、名古屋港に滞在していた時のドキュメント映像。

g. 滞在中活動写真のスライド

パンクロック・スウラップが名古屋港に滞在していた時のドキュメント写真。

h. パンクロック・スウラップ ミュージックビデオ

パンクロック・スウラップが作詞・作曲・パフォーマンスした楽曲『村人たち』のミュージックビデオ。普段の活動の様子を紹介している。

パンクロック・スウラップ 木版画ワークショップ 「Woodcut Party in Minatomachi」参加者作品

No. 作者名《作品タイトル》

ワークショップに参加した感想、もしくはアーティストや展示作品へのコメントなど

1. はるま

2. アンリ、久江《日向ぼっこ》

いままでにないワークショップで楽しかった。

3. SOHEI《RACE》

みんなでノリノリできてとても楽しかったです！

4. 山田倫大 & ママ《泳ぐイーユイ》

はじめて、版画を体験出来て嬉しかったです。曲に合わせて版画を踏んで刷ったことが、とても楽しかったです。

5. 細野泰久《水辺》

とても楽しく、充実したワークショップでした。

自分の作品を彫る過程、刷る過程のチャレンジ感や、出来上がりを見るドキドキ感等がありました。

また、パンクロックスウラップの彫った木版画を、皆で足で踏んで刷るという思いがけないやり方など、驚きと喜びがありました。

ものづくりは、静的な活動になりがちですが、音楽、ダンス、詩など、複数のメディアを活用して、参加者とアーティスト、スタッフの一体感が感じられるとても楽しい時間と空間を作り出していました。

パンクロックスウラップの、時事的な問題やレジデンス先の地域の状況を反映した作品、マレーシアの豊かな自然と暮らしを感じさせる詩と音楽など、素晴らしい試みだと思います。ぜひまた日本での活動や展示の機会があればと思います。

6. KODG《ガイコツ》

パンクロック・スウラップのみんなと一緒にできたのがとても楽しかったです！

7. YOUYOU《むきくり》

楽しかったです！

8. Takayuki Fukaya《白鳥庭園の睡蓮》

Rizo Leong さん、パンクロック・スウラップのみなさんに再会でき、リズムにのって刷ることもできて楽しかったです。ありがとうございました。

9. 水野大輝《反転》

中学生の頃工作の授業で版画には触ったことがあったが、刷る際に自分の足で踏みながら刷るのは新鮮でとても新しい感覚になりました。

10. あんこ《可愛いうさぎ》

版画は踏むのが楽しかったです。彫刻刀は手が疲れました。言葉は通じなかったけど、通じたこともあって楽しかったです。

11. 浅沼香織

制作しながら初めてお会いする方などお話しできて楽しかったです！

12. 山下拓也《ビッグマックポリス》

すごくピースフルなワークショップでした。私も木版を取り入れて制作する作家ですが、手法は同じでも彼らの作品はすごくポジティブなものに見え、一方私の作品は随分ネガティブなものに思えました。同じ手法でも生まれるもののテイストの違いにあらためて気がつくことができました。楽しかったです。

13. 玉田大和

木版画という昔からある方法で、身体を使って作るのは楽しかった。10年ぶりくらいの体験だったので、その時のことを思い出していた。違う国で違う文化にあるようで、こういった体験を通して一体になったような感覚はとても良いと思った。

14. 謝非《くまの花》

版画の面白さを体験しつつ、アーティストの人柄も触れまして、大変勉強になりました。

15. 宮田明日鹿《入管法の改悪反対》

パンクロック・スウラップの活動に影響を受けて、日本の社会問題について最近疑問に思っていることを描きました。

16. 綾部孔貴

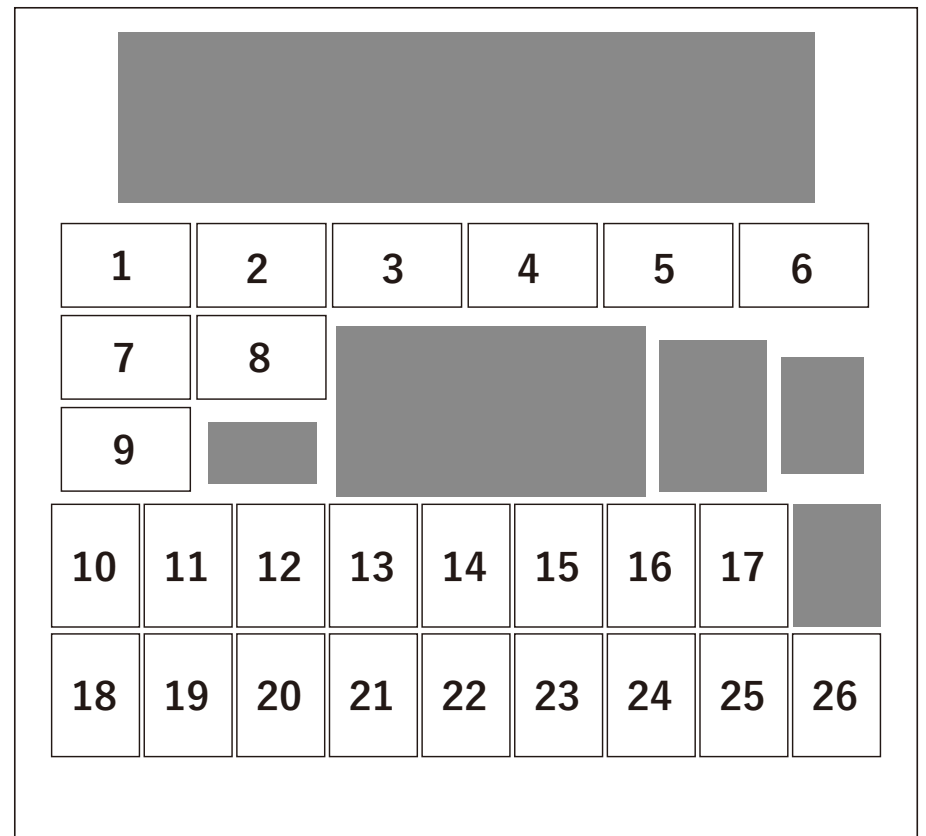
17. 桐月沙樹《When you read you crow—本を読めば成長できる》

Pangrok Sulap のみさん、参加者のみさんの DIY・DIT な雰囲気がとても心地よかったです。作品は、Pangrok Sulap のレイさんが制作したステッカーのメッセージ「When you read you crow」を引用して制作しました。

18. kenta《まねして考える》

様々な国で活躍している Pangrok Sulap さんのワークショップに参加して、さまざまな学びを経験しました。

1. 和やかな雰囲気の中で作家さんとお話が出来て、マレーシアの事を近く感じられて、



2. WS に参加した皆さんと一緒に版画を彫る方法を教えてもらえ、3. アーティストの彫った版で T シャツをつくってオリジナルな物を持ち帰れて、4. 港に滞在中に制作したという大判の版画を刷るプロセスでは、その場に居合わせた人達がギターの歌に合わせて足踏みして刷る、なんて事が経験出来るとは、実際に来て参加するまでは思ってもみませんでした。版画制作を通して、まるで収穫祭を経験したような盛りだくさんな気持ちになりました。

ワークショップの後にアーティストから話を聞くと、さらに驚きがありました。マレーシアのボルネオ島にはまだ電気など公共のインフラが無い場所が多くあり、彼ら自身の活動として住民と話し合って設備をつくり電気を使えるようにしていて、これからも幾つもの村に設置を続けていこうと言います。今回のような滞在や制作によって得られた経験や人のネットワーク、物販などによって得た資金は、そういった活動を実現させる事につながっていて、必要だからやっている事だと明るく話をしてくれました。

目指すところがあり、大切なのは連帯だと話していたのが、私自身にはとても響いています。版画作品や表面的にはあまり分からない事が、関わりを持つ事で大事な気づきが得られたと思っています。

大多数の人を対象としたワークショップなどには参加しませんが、今回のような規模で顔が見えて充実した内容の活動には必要性を感じますし、もしこの様な機会がまたあればこれからも参加したいと思います。

19. chie

20. わたなべ《協働のさかなたち》

木版画制作は小学生以来だったので実に 30 年ぶりくらいでしたが、とても楽しくつくることができました。とくに魚の絵柄は、パンクロックのメンバーの方がデッサンを付け足してくれて、楽しくなって数をどんどん増やしていったものです。良い機会をありがとうございました！

21. かにゅ《ねこ》

ハチワレのねこが大好きで、彫りました。小学生ぶりの版画でしたがとても楽しかったです。また自分で彫ってみたいです！

22. Mitsuko

T シャツにプリントする。自分で作成した木版画で行う。初めての体験だった。パンクロック・スウラップの人たちとは前日に交流会があり参加した。カレーライスと賑やかな音楽だった。版画制作の日は、テーブルごとに親切な指導を受けた。変わっていたのが印刷の仕方だった。インクをぬり、その上に紙をしき足でふみつけ色をつける。楽しく参加ができました。ありがとうございました。

23. Mimi Utami Manja《My Curious Purita》

木版画という最も古い印刷技術のひとつであるメディアに触れ、時間を忘れて楽しく彫ることができました。パンクスラップのメンバーの人柄、歌声、シンプルな身体運動、それらすべてがひとつの作品であり、その 1 パーツとして自分が加わることができたことをとても嬉しく思います。

24. えび《ハートいっぱい可愛いでしょ!?!》

5 歳。初めての彫刻刀でした。難しかったです。なので、みんなに少しずつハートを掘ってもらって作品を完成させました。いろんな模様があるのを見てください。

25. あだっつあん《Link the past to the future》

彫刻で版を作って、作品を制作する。これ日本だけじゃなくて、世界中で行われていたことだったんですね。そういったことを学べるワークショップでしたし、久しぶりの彫刻刀での作品制作 OMORO でした。

26. Kei《拒否と希望》

中学校以来の版画で、ほぼ右も左も分からなかったのですが、とても楽しかったです。また、アーティストの方々の版画への想いやどうやってパンクロック・スウラップに参加することになったのか、などを直接聞くことができ、もともとファンだった彼らの作品への理解がほんのちょっとだけ深まったような気がします。このとても貴重な機会に感謝しています。